

令和3(2021)年

1月号

No.710
丑年

広報 ひたち おおた

広報
ひたちおおたが
WEBでも読める



丑年の抱負
「子育て上手」
「働き上手」
ひたちおおた

特集 令和3年 

新年を迎えて

- おめでとうございます P8
- TOPICS P11
- えんじたちのスマイル P23

◆ 令和3年 ◆

新年を 迎えて

本年も
よろしく
お願いします



常陸太田市市長
大久保 太一

新年あけましておめでとうござい
ます。

昨年は、新型コロナウイルス感染
症が世界中で猛威を振るい、国内に
おいても感染拡大がみられ、国の緊
急事態宣言による外出自粛要請、休
業要請、そして小中学校等の臨時休
校等がございました。今もなお感染
症の収束がみられない中、市民の皆
様におかれましても、3密を避け、
マスク着用・手洗い・換気など、日々
感染予防に努めておられることと存
じます。

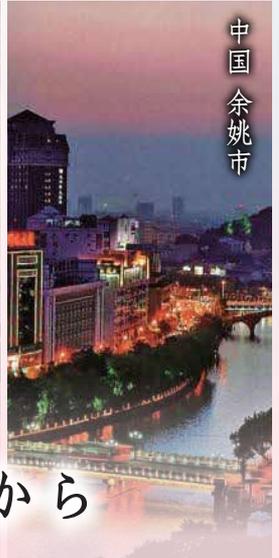
市といたしましても、国・県と連
携を図りながら地域経済の回復と感
染拡大防止対策に努めつつ、新しい
日常生活スタイルによる安全・安心

なる暮らしの確保に、引き続き努め
てまいります。

本年は、平成29年度に策定いたし
ました「常陸太田市第6次総合計画・
前期基本計画」の総仕上げの年とな
ります。計画に位置付けられた重点
施策の着実なる推進を図るとともに、
前期計画の課題を踏まえた後期基本
計画策定に向け準備を進めて参りま
す。まちづくりの理念「市民のだれ
もが生涯活躍できるまちづくり」の
実現に向け、なお一層尽力してまいり
ますので、皆様の一層のご支援・
ご協力をお願い申し上げます。

結びに、市民の皆様のご健勝とご
多幸をお祈り申し上げ、新春のごあ
いさつといたします。

中国 余姚市



大分県 臼杵市



茨城県 牛久市



秋田県 仙北市



秋田県 秋田市



姉妹都市・有縁友好交流都市から 新年のメッセージ



姉妹都市
秋田県
秋田市長
穂積 志氏

秋田市民を代表し、常陸太田市民の皆様に
謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年、貴市において常陸秋そばフェスティバル
より、貴市において常陸秋そばフェスティバル
里山フェアをはじめとする様々なイベントが中
止となり、本市においても竿燈まつりが中止を
余儀なくされ、誠に残念な思いをいたしました。
今年は、状況が改善し、両市において市民の
皆様が楽しくふれあえる行事が行われ、にぎや
かな声が再び戻ることを強く願ってやみません。
今後も、佐竹氏の国替えという歴史的背景
に始まった両市の縁を大切にし、お互いに助け
合いながら、末永く
交流を続けていける
よう願っております。
本年が皆様にとり
まして、笑顔あふれ
る年となりますよう
心からお祈り申し上
げます。



有縁友好
交流都市
秋田県
仙北市長
門脇 光浩氏

常陸太田市の皆様に、謹んで新年のご挨拶
を申し上げます。佐竹氏をご縁に友好交流を
させていただき秋田県仙北市です。昨年は新
型コロナウイルス感染症への対応でサクラなど
花紀行は中止し、以降も角館のお祭りなど多
くの風物詩は次々に開催を見送りました。

これから季節を迎える冬期間の伝統行事も、
幾つか同様の対応になりそうです。私たちは
新しい日常を生きること、そしてコロナに打ち
勝つこと、これが令和3年の決意です。
年末に、新・角館庁舎が開庁しました。お
越しになった際は、是非お立ち寄りください。
お待ちしております。





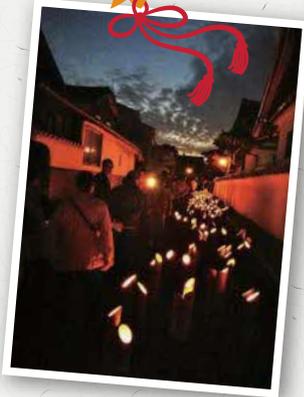
姉妹都市
茨城県
牛久市長
根本 洋治氏

常陸太田市の皆様、明けましておめでとうございます。
皆様方におかれましては、お健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。
昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から行事が中止となり、両市のお祭りでお目にかかれず、大変残念でございました。
常陸太田市の皆様と交流ができませんでしたが、こんなにもさみしいということ、交流ができなかったからこそ感じました。それほど、常陸太田市の皆様と牛久市民との友好関係の深まりを実感しております。
感染症の不安が一日も早く終息し、交流が再開できることを心待ちにして、常陸太田市の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。また、常陸太田市と牛久市の絆がより深まることを願い、新年のあいさついたします。



姉妹都市
大分県
臼杵市長
中野 五郎氏

新年明けましておめでとうございます。
昨年は、常陸太田市と臼杵市が姉妹都市の提携を結んで5年となる記念すべき年でありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していました市民交流団の貴市への訪問が実現せず大変残念でした。
しかしながら、双方の広報紙を通じた紙面交流等により、二孝女の縁にもとづく孝心や思いやりの精神、また両市の深い絆を広く両市の市民にお伝えできたものと考えています。
今年こそは、感染症対策に目途が立ち、本格的な市民交流が再開できますことを願うところであります。
本年もどうぞよろしくお願いたします。



福



友好都市
中国 余姚市
人民政府市長
徐 云氏

新年あけましておめでとうございます。余姚市を代表しまして、常陸太田市の皆様にご挨拶申し上げます。
余姚市と常陸太田市は朱舜水先生がご縁となり、1999年に友好都市を締結しました。それから両市は協力し、助け合いながら進歩し、相互交流を行うことでより絆を深めてきました。
2020年には新型コロナウイルス感染症が流行し始めましたが、苦しい時も手を取り合って互いに医療物資を支援し合い、「言曰无衣、与子同袍」(訳：戦服が無いなら、俺のを一緒に着よう!)という気持ちで両市の心は一つになりました。常陸太田市の皆様からの暖かいご支援を、私たちは決して忘れません。「山川異域、風月同天」(離れていても、繋がっているという意味)。新年を新たな出発点とし、互いに交流と協力を深め、発展できることを期待しております。
最後に、常陸太田市の皆様の幸せと、両市の友情が永遠に続くことをご祈念いたしまして、新年のあいさついたします。



HAPPY NEW YEAR

【特集2】

丑年の抱負

今月号の広報ひたちおおたでは新年のスタートにふさわしく、
市内で暮らす「子育て上手」と「働き上手」さんにお話を伺いました。
2021年・丑年。牛のように一步一步どっしりと、しっかりと地に足をつけて……
市民の皆さんが明るい笑顔で暮らせる、住みよい常陸太田市を目指してまい進してまいります。

子育て上手

働き上手

ひたちおおた



「子育て上手」さん

大里町

蓮田道隆さん、沙雪さん、七海ちゃん



常陸太田市子育てWEBマガジン
「papa mama じょうず」



大里町で暮らす蓮田さん家族。奥様の沙雪さんの実家は常陸牛指定生産者でもある肉用牛肥育農家「キャトルファーム・セキ」で、現在は道隆さんと共に家業を継いでいます。2016年に結婚、そして2018年に第一子・七海ちゃんを出産。「常陸太田は子ども頃から暮らす慣れ親しんだ地元であり、親元ではありませんが出産も子育ても、とにかく何もかもが初めてだったので全てが心配なことばかりでした」（沙雪さん）そんな彼女にとって、心強い味方になってくれたのが、子育て支援施設

「じょうずるはうす」でした。「子どもの遊び場としてだけでなく、じょうずるはうすで世代や地域関係なく幅広いママ友さんと出会えて、情報交換をできたのがとても助かりました。ごはんを食べてくれないとか、小さいお子さんを持つママの悩みって、大体同じなんですよね。だから、ママ同士で話して、悩んでいるのは自分だけじゃないんだって分かって安心できたこともあります。良い情報もどんどん共有してくれそうですよ。ママ友から「子育てじょうずるメール」がいろいろ教えてもらったので活用

していききたいです」と話します。七海ちゃんもじょうずるはうすが大好きで、時間があるときはよく遊びに行くのだそう。「常陸太田は自然が豊かで、遊べる場所がたくさんあるのは子どもにとっても嬉しいですね。近所の人も親切にしてくれて、地域一体で子どもを見てくれます。また、七海を預けているすいふこども園の皆さんもとっても優しく、臨機応変に柔軟に対応してくれるのでありがたいです。環境に恵まれているなと思います」。また、子育てに専念している間は道隆さんに仕事を任せたり、

逆に道隆さんと育児を代わったりと、蓮田家では夫婦間での連携がしっかりとできていく様子。「仕事も、家事も、育児にもすごく協力的な旦那さんで、七海もお父さんが大好きなんです」と笑う沙雪さん。そのお腹の中には双子の赤ちゃんがおり、来年春に出産予定です。これから生まれてくる子が健やかに育つよう、安心して出産・子育てできる常陸太田市を目指していきます。

「働き上手」さん

赤土町
株式会社ファーム赤土

海老根賢一さん、松本遼太郎さん、桑原一美さん



赤土町の山あいにある黒毛和牛繁殖農家「ファーム赤土」。子牛を産ませ、10カ月間育て、肥育農家へ出荷するまでを担います。現代表の海老根さんが57歳の時に退職・帰郷を契機にスタートし、2019年4月に法人化。法人化へ踏み切った理由は、農業の第三者経営継承です。

和牛繁殖農家研修受け入れ先として海老根さんのところへやってきたことをきっかけに、互いの要望がマッチングし第三者経営継承が決まったといえます。「ここは山間地域という特性と耕作放棄地を活用し、牛を放牧していて、ストレスなくのびのびと牛を育てられる環境。適度な運動は牛にとっても利点があり、足腰が丈夫になってお産にも良い影響を与えてくれます。この場所でぜひ働きたいなと思いました」と松本さん。海老根

さんも「最近の若い人では珍しいぐらゐら礼儀正しくて、仕事熱心。体力的にも大変なのに、根気強く頑張ってくれている」と、彼にやら事業を任せられると感じたそうです。共にファーム赤土を支える桑原さんも、松本さんの働きぶりには太鼓判。実際、松本さんは既に今後の経営目標を明確に見据えていました。「これからもっと頭数を増やしていくために、放牧場を増やしていきます。ゆくゆくは社員も増やさなきゃ。農業者のマッチングサイトを活用するなど、ファーム赤土で能力を発揮してくれ

る人を募集します」と松本さん。更に「ファーム赤土をこれからの山間地域農業のモデルにしたい。働く場がないから、外に出ていってしまう。それならこの場所を生かした農業を考えて、仕事を作ればいいんです」とも力強く話してくれました。これまでの歴史を受け継ぎ、新たな視点で発展させていく若き農業者。2年後、ファーム赤土の代表を継承する松本さんの活躍は、常陸太田のリーディングモデルになってくれることでしょう。

ひたちおおた移住・定住総合サイト
「じょうづらライフ」

